

昭和51年度作況一覽

えん麦	大豆	小豆	ばれいしょ	てんさい
やや良	やや良	良	良	直播;良 移植;良

I. 気象概況

本年の農耕期間(4月～10月)の気象経過は次のとおりである。
 根雪終(融雪期)は4月11日で平年より7日遅く、晩霜(終霜)は5月6日で平年より3日早かった。
 気温の経過を平年に比較すると、4月はほぼ平年並であったが、5月上旬はやや低かった。5月中旬以降6月上旬までは最高、最低、平均気温とともに平年より高めに経過したが、6月中旬から7月中旬までは平年並み～やや低めであった。7月下旬に入って気温は上昇し、26日には最高気温34.8℃と過去10年間の最高を記録し、また旬平均の最高気温は平年より3℃高かった。しかし8月に入って気温は低めとなり、とくに最低気温が低く、8月上旬～下旬の各旬平均の最低気温はいずれも平年より2℃前後低かった。9月上旬以降10月下旬まではほぼ平年並の経過をたどったが、初霜は10月6日で平年より12日早かった。また4月から10月の積算気温は3021.2℃で平年より9.3℃少なかった。
 降水量については、4月はほぼ平年並であったが、5月中旬から9月下旬までは少なめに経過した。月別降水量を平年に比較すると、5月79%、6月84%、7月40%、8月67%、9月54%で、7～9月の降水量がかなり少なかった。しかし10月は平年よりやや多めであった。また4月から10月の総降水量は552.8mmで平年より165.2mm少なかった。
 日照時間については、5月と7月がいずれも平年より20時間前後多く、6月が平年より10時間少なかった以外はほぼ平年並で、4月から10月の日照時間は1307.3時間で平年より35.3時間多かった。
 以上の結果から本年の気象経過としては、5月中旬～6月上旬ならびに7月下旬の高温、8月上旬～下旬の低温と7～9月の寡雨などが特徴としてあげられる。

II. 昭和51年度の作況

1. えん麦 昭和51年度の作況:やや良

事由:融雪は遅れたがほ場の乾燥状態がよく、平年より8日早く4月27日に播種した。発芽も良く、さらに5月中旬より好天に恵まれ書記生育は順調であった。その後6月中、下旬は低温寡照となり、やや軟弱な生育であったが草丈は平年より高く推移した。7月に入って上旬は極めて多照寡雨となり、出穂期は平年より4日早まり、登熟期間の引続き寡雨に経過したため登熟は進み、平年より5日早く8月9日に成熟に達した。生育期間後半のやや低温早ばつ気味な気象経過により、倒伏その他の障害が少なく、登熟は比較的順調であった。子実収量は平均比104%であった。
 以上により、昭和51年度の作況はやや良である。

品種名 項目/年次	オホーツク			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	4.27	5.5	△8	
出芽期(月.日)	5.11	5.19	△8	
出穂期(月.日)	7.10	7.14	△4	
成熟期(月.日)	8.9	8.14	△5	
草丈 (cm)	6月20日	62.5	54.0	8.5
	7月20日	135.8	122.1	13.7
	8月20日	135.9	122.9	13
茎数 (本/50cm畦)	6月20日	47.0	55.9	△8.9
	7月20日	48.0	39.1	8.9
	8月20日	37.3	36.2	1.1
総重(kg/a)	103.5	91.3	12.2	
稈重(kg/a)	57.0	46.9	10.1	
子実重(kg/a)	36.3	34.8	1.5	
リットル重(g)	503	486	17	
千粒重(g)	33.2	33.2	0	
子実重平年対比(%)	104	100	4	

注) 平年値は前4か年平均。ただし、6、7月の草丈及び茎数は前2か年平均。

2. 大豆 昭和51年度の作況:やや良

事由:播種は平年よりやや早かったが、播種後の降水量不足で発芽に日数を要し、発芽期はほぼ平年並であった。発芽期は概して多照寡雨の天候が続き、7月上旬には最低気温の低い日もあったが、生育は平年並に経過し、開花期はほぼ平年並であった。開花後8月の気温は平年よりやや低めとなったが、9月に入って気温は平年並となり、中生種の登熟はほぼ平年並に経過し、「北見白」の成熟期は10月5日で平年より2日早かった。しかし10月に入って降雨が平年よりやや多く、晩生種の登熟はやや緩慢となり、「ユウズル」の成熟期は10月20日で平年より6日遅れた。

成熟期における生育は、主茎長、主茎節数は両品種共平年よりまさり、着莢数は「北見白」が平年よりややまさり、「ユウズル」は平年並で、分枝数は両品種共平年よりわずかに劣った。

子実収量は「北見白」は34.1 kg/aで平年より17%多かったが「ユウズル」は28.1 kg/aで平年より1%劣った。また、百粒重は両品種共平年より劣り、とくに「ユウズル」は5.7g(平年比13%減)劣った。なお障害としてはダイズわい化病の被害が平年よりやや多く、また9月9日の風雨による倒伏が目立った。

以上により、昭和51年度の作況は両品種を通じ、やや良である。

品種名 項目/年次	北見白			ユウズル			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.14	5.18	△ 4	5.14	5.16	△ 4	
出芽期(月.日)	6. 7	6. 8	△ 1	6. 8	6. 7	1	
開花期(月.日)	7.25	7.26	△ 1	7.29	7.31	△ 2	
成熟期(月.日)	10. 5	10. 7	△ 2	10.2	10.14	6	
主茎長 (cm)	6月20日	6.3	6.2	0.1	5.8	7.6	△1.8
	7月20日	30.9	26.4	4.5	24.9	26.3	△1.4
	8月20日	61.7	55.2	6.5	66.6	60.1	6.5
	9月20日	62.6	55.7	6.9	68.9	60.4	8.5
分枝数 (本/株)	成熟期	61.8	55.4	6.4	71.9	60.7	11.2
	7月20日	4.1	2.9	1.2	2.4	1.7	0.7
	8月20日	5.6	7.0	△1.4	5.0	5.1	△0.1
	9月20日	6.0	6.4	△0.4	4.8	4.8	0.0
主茎葉数 (葉)	成熟期	5.8	6.0	△0.2	4.7	4.7	△0.2
	7月20日	6.9	6.9	0.0	6.5	6.7	△0.2
	8月20日	13.4	13.9	△0.5	14.1	15.2	0.9
	9月20日	14.2	13.9	0.3	14.6	15.2	△0.6
着莢数 (莢/株)	成熟期	14.6	13.1	1.5	15.3	14.8	0.5
	9月20日	81.1	78.2	2.9	59.2	59.8	△0.5
子実重(kg/10a)	77.2	72.9	4.3	56.1	55.6	0.5	
百粒重(g)	341	292	49	281	285	△ 4	
虫喰率(%)	25.1	27.0	△1.9	37.1	42.8	△5.7	
品質(等級)	0.4	1.7	△1.3	1.5	0.8	0.7	
子実重平年対比(%)	—	2	—	—	2	—	
	117	100	17	99	100	△ 1	

注)ユウズルの平年値は前5か年平均。

3. 小豆 昭和51年度の作況:良

事由:播種期は2日、萌芽期は8日それぞれ平年より早かった。その後6月上旬以降の寡雨と6月中旬以降の冷涼な天候により葉は杯状を呈するものが多かったが、7月中旬迄に葉の異状症状も回復しほぼ平年並の生育となった。7月下旬は気温が高目に経過し、特に平均最高気温が平均より3℃高く、日照も多かったため生育が進み、開花期は平年より2日早くなった。

8月は各旬とも低温に経過し、また上旬は日照も少なかったため生育は遅延し草丈は平年より高いが、分枝数少なく、着莢数がやや少なめであった。9月上中旬は日照時間はやや少なかったが気温がやや高く、生育の遅れは多少とりもどしたが9月20日に平年より5日おくれて成熟期に達した。成熟期の草丈は平年よりやや高く、分枝数はやや少なかったが、着莢数はほぼ平年並となった。

収量は10a当たり249kgで平年対比135%で、百粒重も平年より重かった。着莢数がほぼ平年並で作況が良好となったのは登熟期間の延長により百粒重が重くなったことと、くず豆歩合が少なかったことによるものと思われる。

以上により、昭和51年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	宝小豆			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.19	5.21	△ 2	
出芽期(月.日)	6.10	6.18	△ 8	
開花期(月.日)	7.28	7.3	△ 2	
成熟期(月.日)	9.20	9.15	5	
草丈 (cm)	6月20日	3.0	1.9	1.1
	7月20日	9.1	10.0	△0.9
	8月20日	38.7	30.7	8.0
	成熟期	39.7	35.7	4.7
主茎葉数 (枚)	7月20日	4.6	4.6	0.0
	8月20日	10.3	10.0	0.3
分枝数 (本/株)	7月20日	1.7	0.7	1.0
	8月20日	1.8	2.4	△0.6
	成熟期	1.6	2.5	△0.9
着莢数 (莢/株)	8月20日	23.7	28.0	△4.3
	成熟期	32.9	33.9	△1.0
子実重(kg/10a)	249	184	65	
百粒重(g)	11.6	9.9	1.7	
屑粒率(%)	3.1	5.5	△2.4	
子実重平年対比(%)	135	100	35	

4. ばれいしょ 昭和51年度の作況:良

事由:播種期が平年より7日早く、発芽期は3~6日早かった。初期成育は順調であったが、7月上旬より極めて寡雨に経過したため生育後半の草丈は抑制され、平年より8~22cm低く推移した。なお「男爵薯」は7月下旬の高温により一時萎凋し、下葉の枯れがみられた。しかし、日照は比較的多く、8月が全般に低温に経過したこと、疾病の発生が少なかったため両品種共茎葉枯凋は遅れた。とくに「農林1号」は平年より11日遅く、9月26日に枯凋期に達した。

この結果、上いも収量は早生の「男爵薯」は7月の乾燥の影響を受けて平年比104%に止まったが、「農林1号」は147%と極めて多収であった。またでん粉価も高く、「農林1号」は16.3%を示し、平年より2.4%高かった。

以上により、昭和51年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	農林1号			男爵薯			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期(月.日)	4.27	5.4	△ 7	4.27	5.4	△ 7	
萌芽期(月.日)	6.1	6.7	△ 6	6.3	6.6	△ 3	
開花期(月.日)	7.4	7.8	△ 4	7.5	7.5	0	
枯凋期(月.日)	9.26	9.15	11	9.6	8.30	7	
茎長 (cm)	6月20日	26.7	17.0	9.8	20.1	15.6	4.5
	7月20日	51.8	65.2	△13.4	42.6	51.2	△8.6
	8月20日	51.8	74.2	△22.4	41.3	50.5	△9.2
茎数 (本/株)	6月20日	3.7	4.5	△0.8	3.5	3.9	△0.4
	7月20日	3.4	4.7	△1.3	3.6	4.1	△0.5
	8月20日	3.5	4.8	△1.3	3.1	3.9	△0.8
上いも重(kg/10a)	4,946	3,715	1,231	3,453	3,309	144	
でん粉価(%)	16.3	13.9	2.4	13.1	13.6	△0.5	
上いも重平年対比(%)	147	100	47	104	100	4	

5. てんさい 昭和51年度の作況:直播;良 移植;良

事由:融雪期が平年より約1週間遅れたが、4月下旬の天候が寡雨多照に経過したため、耕鋤作業は順調に進み、直播の播種は平年に比べ7日～10日早く、移植も平年より約10日早く4月27日に行った。播種、移植後は適当な降水量があったため、直播の発芽および移植の活着とも良好であった。

生育初期の5月下旬から6月上旬は気温が高かったため、草丈の伸長、葉数の増加とも良好であった。その後6月下旬から8月下旬の気温は、7月下旬を除き一般に低く経過したが、てん菜の生育には支障なく、地上部の生育は旺盛で、それにとまって根部の肥大も極めて順調であった。

生育後半の9月に入っても根部の肥大は順調であったが、10月に入ってから、たびたびの降雨により土壌が加湿となり、根部の肥大は鈍くなった。

根重は9月中旬までの根部の肥大が極めて順調であったため、直播の「てんけん1号」が5.61t/10aで平年より29%、「モノホープ」が5.39t/10aで平年より20%多かった。また、移植の「てんけん1号」は6.31t/10aで平年より16%、「モノホープ」は6.04t/10aで平年より3%多収であった。

一方、根中糖分は根重が多収であったにもかかわらず極めて高い値を示し、直播の「てんけん1号」が16.81%で平年対比113%、「モノホープ」が17.62%で平年対比120%と高く、移植の両品種もそれぞれ16.99%と17.45%で平年対比111%～112%の高糖分であった。糖量は根重が多く、根中糖分が多かったため直播の「てんけん1号」が943kg/10a、「モノホープ」が950kg/10aで約45%多収、移植の「てんけん1号」は1072kg/10aで平年より29%、「モノホープ」は1053kg/10aで平年より16%多収を示した。

また、病害虫では褐斑病の発生が極めて少なく、根腐病の被害も軽微であった。一方、ヨトウガは発生回数は多かったが、発生量が少なく被害もほとんどなかった。

以上、本年のてん菜は生育の全期間を通じて、気象、病害虫等で特に障害となる事項がなく、多収、高糖性であり、昭和51年度の作況は良である。

品種名(栽培法) 項目/年次	てんけん1号(直播)			モノホープ(直播)			てんけん1号(移植)			モノホープ(移植)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	4.27	5.4	△7	4.27	5.4	△7	4.2	4.3	△1	4.2	4.1	1	
移植期(月.日)	—	—	—	—	—	—	4.27	5.6	△9	4.27	5.8	11	
発芽期(月.日)	5.13	5.23	△10	5.13	5.22	△9	—	—	—	—	—	—	
収穫期(月.日)	10.19	10.18	1	10.19	10.17	2	10.19	10.16	3	10.19	10.17	2	
草丈 (cm)	6月20日	21.9	11.7	10.2	21.5	11.9	9.6	32.2	23.7	8.5	36.1	22.7	13.4
	7月20日	59.0	45.2	13.8	53.2	41.5	11.7	59.7	53.1	6.6	47.9	41.8	6.1
	8月20日	66.0	67.0	△1.0	59.6	59.9	△0.3	66.0	66.2	△0.2	49.5	57.1	△7.6
	9月20日	65.0	67.1	△2.1	59.2	63.7	△4.5	66.4	66.6	△0.2	56.6	59.9	△3.3
	収穫期	64.6	63.9	0.7	59.4	59.5	△0.1	65.2	62.5	2.7	52.4	59.4	△7.0
葉数 (枚)	6月20日	9.8	5.2	4.6	9.3	5.4	3.9	11.9	10.5	1.4	10.3	9.4	0.9
	7月20日	17.6	14.3	3.3	16.4	12.4	4.0	20.7	19.1	1.6	19.7	17.2	2.5
	8月20日	25.0	22.9	2.1	20.2	24.5	△4.3	28.3	26.4	1.9	28.8	24.8	4.0
	9月20日	29.8	25.0	4.8	23.6	24.3	△0.7	31.2	27.6	3.6	37.0	25.9	11.1
	収穫期	31.4	24.9	6.5	24.6	24.2	0.4	32.0	29.9	2.1	36.4	25.1	11.3
根周 (cm)	7月20日	18.9	11.2	7.7	20.8	11.0	9.8	21.8	18.0	3.8	24.3	17.5	6.8
	8月20日	25.2	23.6	1.6	29.1	23.4	5.7	26.7	28.2	△1.5	30.7	26.8	3.9
	9月20日	31.4	28.4	3.0	35.6	28.0	7.6	32.0	30.4	1.6	35.7	31.1	4.6
収穫期	32.3	28.4	3.9	35.2	29.5	5.7	32.0	32.3	△0.3	37.5	32.4	5.1	
茎葉重(t/10a)	5.28	4.25	1.03	6.18	4.22	1.96	6.08	4.68	1.40	5.24	4.67	0.57	
根重(t/10a)	5.61	4.34	1.27	5.39	4.49	0.90	6.31	5.44	0.87	6.04	5.84	0.20	
根中糖分(%)	16.81	14.85	1.96	17.62	14.64	2.98	16.99	15.25	1.74	17.45	15.58	1.87	
糖量(t/10a)	943	644	299	950	658	292	1072	829	243	1053	910	143	
根重平年対比(%)	129	100	29	120	100	20	116	100	16	103	100	3	
根中糖分平年対比(%)	113	100	13	120	100	20	111	100	11	112	100	12	

注)モノホープの平年値は前3か年平均。